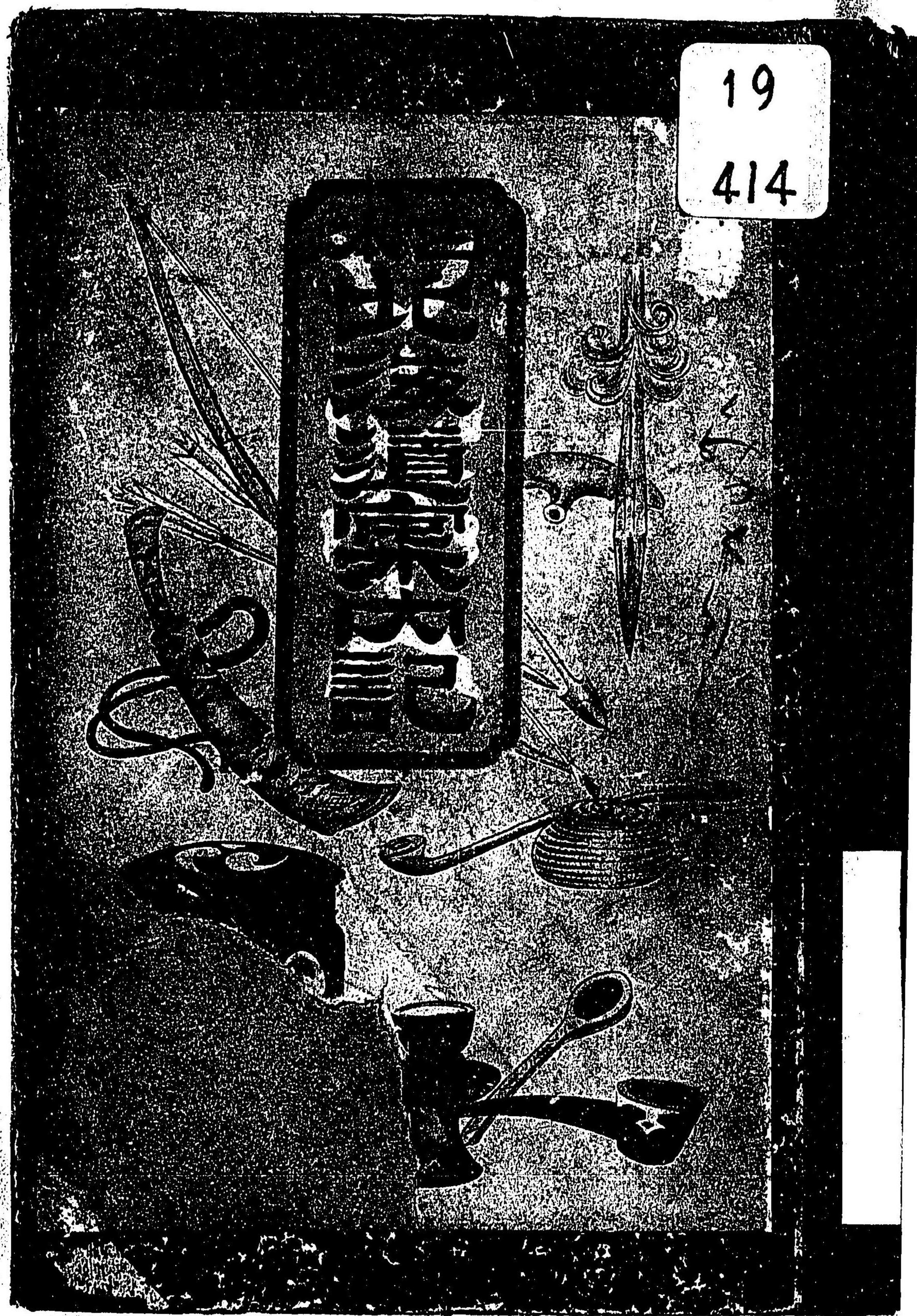


19

414



023239-000-5

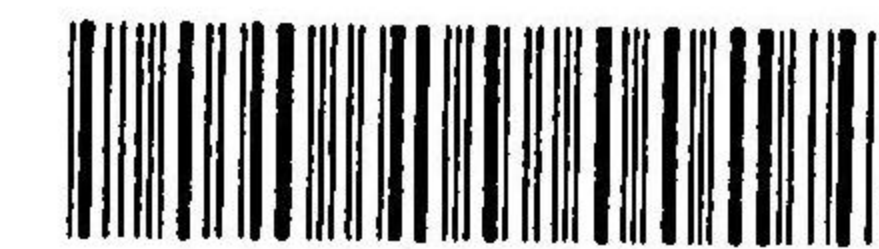
19-414

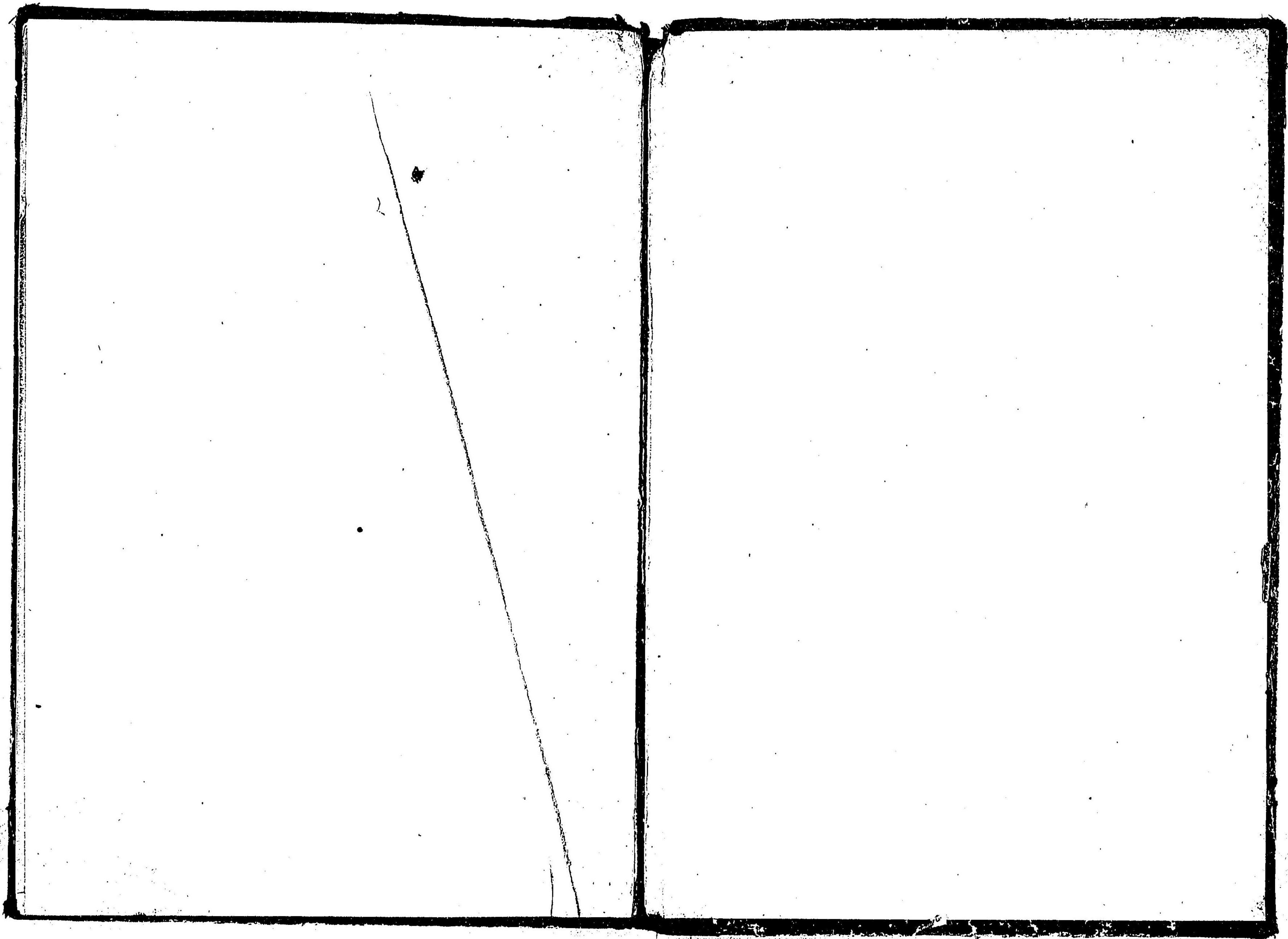
北海道案内記(日本)

ジョン・バチェラー/著

M26

ADC-0086



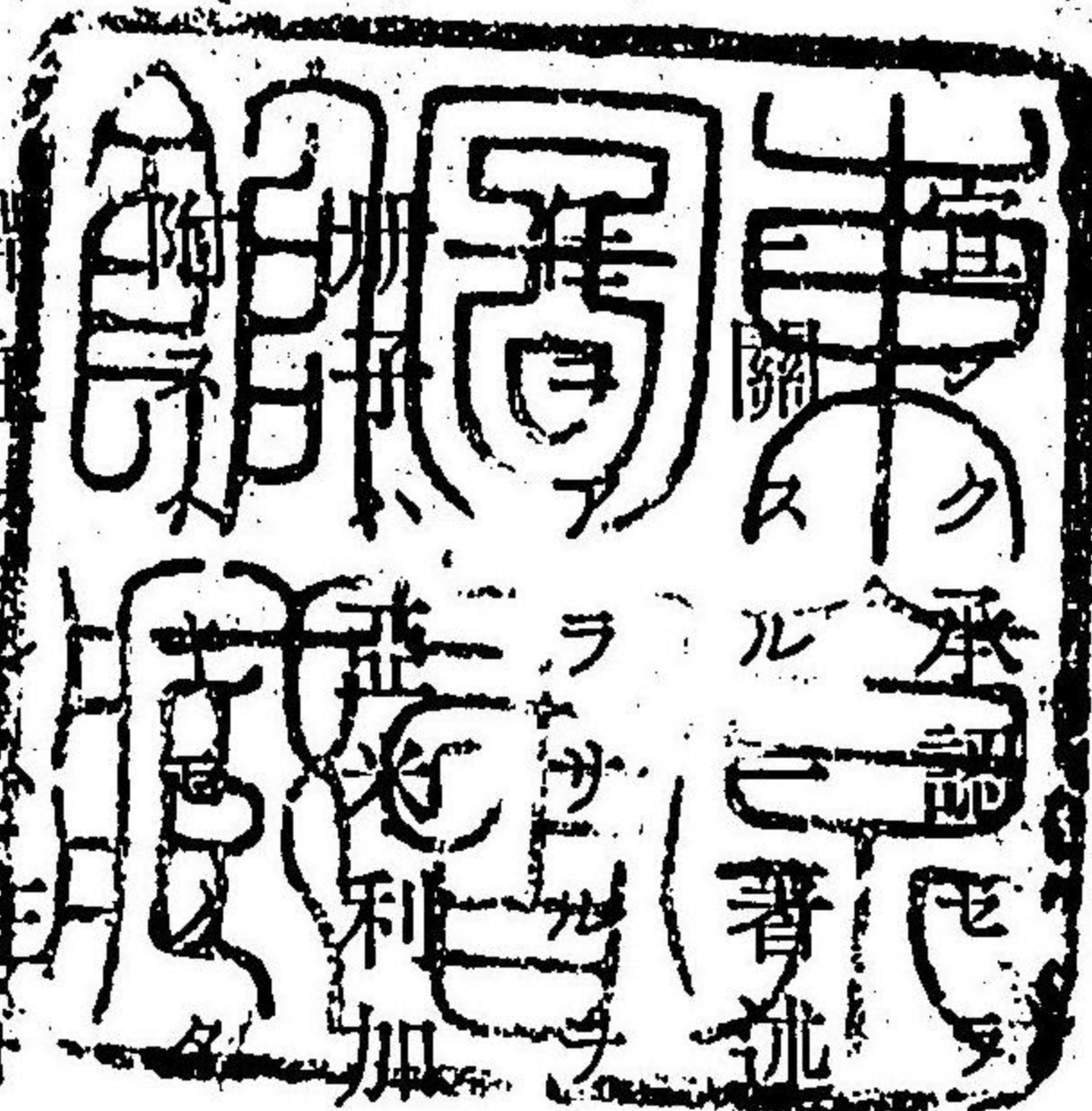


日本北海道案内記

緒言

1897/1898

此ノ小冊子ノ編著ハ余ノ創意ニ係ルニアラス函館商  
 工會ノ依頼ニヨリテ成リタルモノナレハ此ノ事實ハ  
 レンヲ希望ス初メ同會ヨリ北海道  
 アランヲ依嘱セラレ、ヤ余ハ其適  
 信シ一タヒハ之ヲ辭セリ況ンヤ此ノ  
 大博覽會場内北海道部ノ縦覧人ニ配  
 ルヲ知ルニ於テオヤ且余ノ此ノ地ニ  
 滞在スルニ主トシテ北海道ニ於ケル舊土人ヲ教導ス  
 ルニアリテ英文ノ著述ヲナスカ爲メニアラサルヲ以



二  
テナリ然レモ退テ考フルニ今回ノ著述タルヤ殆ント  
余カ已ニ蒐集シタル材料ヲ整理謄寫スルニ過キスシ  
テ本務ノ餘暇ヲ以テ之ヲ爲スヲ得ヘケレハ函館商工  
會ノ如キ樞要ナル一団体ノ依囑ヲ全フスルハ亦余ノ  
義務ナリト思考シタルヲ以テ遂ニ此ノ著アルニ至レ  
リ而シテ編著ノ主意トシテ商工會ヨリ示サレタルハ  
左ノ二項ニ過キス則チ第一北海道地理ノ概畧ヲ述フ  
ルヲ第二當道來遊者ノ爲メニ簡單ナル案内記ヲ作ル  
ト是ナリ故ニ余ハ此ノ主意ニ基キ精確ヲ缺サル限リ  
ハ專ラ簡潔ヲ主トシテ記述スルヲ務メタリ且此ノ  
編著ニ當リ北海道廳ヨリ統計上ノ材料ヲ蒐集スルニ

於テ少ナカラサル便宜ヲ與ヘラレ又植物ノ調査ニ就  
テハ宮部學士ノ周旋助力ヲ得動物ノ調査ニハ小寺君  
ノ補助ヲ辱フシタルハ余ノ深ク謝スル所ナリ去リナ  
カラ此ノ著ノ是非曲直ノ如キハ余ノ獨リ任スル所ニ  
シテ固ヨリ函館商工會ノ責ニアラサルナリ

千八百九十二年一月

札幌ニ於テ

シヨン、バナユラー

日本北海道案内記 譯本

在札幌 レウエ、ゼ、バナユラー 著

第一章

總論



地理  
道ハ日本皇帝陛下ノ帝國最北端ニ在ル島嶼ナリ而シテ其產物ハ  
其大部ハ形ヲ稱鱈魚ニ彷彿タリ最近ノ實測ニ係ル報告ニ依ルト  
其面積ハ四十八百七十五方哩ナリ近時ニ至ルマテ日本帝國中  
外國人ニ於テハ全ク蝦夷地ノ名稱ヲ以テ知ラレタ  
地ノ名稱ヲ付記スルコトアルヘシ

附言北海道ハ北ノ海道ノ義ナリ

二 蝦夷ナル名稱ハ恐ラク「アイヌ」語ノ「イソ」即チ遊獵  
或ハ野獸多分ナル意義アル語ノ變壞ナルヘシ

蝦夷地ノ南端ト固有日本地トノ間ハ津輕海峽又名「ブレキストン」線  
路ト稱スル海峽ヲ以テ分界ス但シ此名稱アルハ故英國陸軍大尉「テ、ダ  
ブリユ、ブレキストン」氏當道ヲ探險シテ日本蝦夷地ト題セシ著書ヲ以  
テ世ニ公ニセシニ由ルナリ此海峽ハ潮流激烈ニシテ最狹ナル處ハ大  
約十哩アリ本道ノ北端ハ「テラペロウス」海峽ヲ以テ薩哈連島ヲ分界シ  
此距離大約二十五哩ナリ西ハ日本海及ヒ韃靼海ヲ以テ界シ北東ハ大  
平洋ト「オコホヅク」海ヲ以テ界セリ其經緯度ハ左記ノ如シ  
東端ハ東經百四十五度四十九分三十秒  
西端ハ東經百三十九度三十五分  
南端ハ北緯四十一度二十三分十秒  
北端ハ北緯四十五度三十一分

二 蝦夷歴史

日本古代史ニ蝦夷地ノ名稱記載ナシト雖モ往昔ヨリ仙臺以北ノ地方  
ニ日本ノ「アイヌ」即チ土人タルモノ近世ニ至ルマテ居住セシモノニシ  
テ往時該地方ニモ亦タ其名稱ヲ用ヒシモノナラン「アイヌ」ハ自ラ蝦夷  
人ト唱ヘ彼等居住セシ地方ハ日本ノ何地ヲ問ハス之ヲ蝦夷地ト稱セ  
リ然レモ尙ホ近時ニ至テ蝦夷人即チ「アイヌ」タルモノ漸次北部ニ逐除  
セラレ全ク日本大地ヲ去テ終ニ北海道ニ渡航シタルヲ以テ當時此島  
ヲ指シテ日本人ハ特ニ蝦夷地ノ名稱ヲ適用セシモノナリ尙ホ後年ニ  
至テ日本人ハ此「アイヌ」人ヲ征服シ一千六百〇四年ニ至リ武田信廣ナ  
ルモノ其征服ノ功ヲ奏シ且殖民セシ後此蝦夷地ヲ徳川家康ニ於テ松  
前慶廣ニ交付セシト云フ

「モルレイ」氏ノ著述ニ係ル日本袖珍書ニ記スル處ニ依レハ松前家代々  
ノ政廳ハ近頃福山ト改稱セシ松前城邑ニ在テ一千八百六十八年ニ至

ルマテ本道ノ西部ヲ管轄セリ東部ハ十八世紀ノ末紀以降一千八百二十年ヨリ同五十四年ニ至ル三十四年間ヲ除キ悉ク將軍家川總ノ直轄ニ屬セリ徳川家ノ轉覆ト共ニ諸大名ノ藩籍奉還後更ニ開拓使殖民ヲ置キ之ヲ管轄セシメ爾來日本固有ノ版圖ト倣セリ而シテ北海道ト改稱シ日本帝國他道ノ如ク之ヲ九ヶ國ニ分割セシト云フ然レモ其實當時北海道ヲ十一ヶ國ニ分割セラレタルモノナリ即チ渡島後志石狩天鹽北見膽振日高十勝釧路根室及ヒ千島國群島是ナリ又モルレイ氏ノ記述スル如ク往昔蝦夷地ハ漁業ノ目的ヲ以テ專ラ日本大地北部ノ人民ノ往來スル處ナリト雖モ方今ニ至テハ日本各地ノ人民ヲ本道ニ移住セシメ農業殖産ノコトヲ獎勵セラレ北米合衆國人ゼネラルケブロン氏ヲ始メ其他米國人ノ補助ヲ以テ本道ノ富源ヲ増進センコトヲ目的トシ大計畫ヲ以テ公業ヲ興起セリ其後又開拓使ヲ廢シ縣治政ヲ設ケ日本帝國他ノ地方ト同シク縣廳ヲ設置セラレタリモルレイ氏報道

スル處ノ本道殖民策ニ關シテ注目スヘキモノアリ即チ一千八百七十四年中ハ北海道ノ人口アイヌ人ヲ合シテ十四万四千〇六十九人ナリ一千八百九十一年ニ至テ日本人ノミヲ以テ三十八万九千七百四十九人及ヒアイヌ人一万六千七百六十五人ヲ合算スルキハ四十万〇六千五百十四人ノ多キニ達セリ而シテ尙ホ年々増加スルヲ見ル現今北海道ノ首府ハ札幌ニ在テ一千八百七十年ニ創設セシモノナリ本道ノ重要ナル海港ハ東南沿岸ニ於テハ函館室蘭釧路厚岸根室等ナリ西沿岸ニ於テハ札幌ヨリ鐵道ニテ二十二哩ヲ距ル小樽港ナリ

### 三 千島

北海道二部中ノ小部タル千島ハ一名クリル島ノ名稱アルモノニシテ蝦夷地ノ東北ニ在ル群島ナリ其大ナルモノハ國後擇捉バラモシ等ナリ此群島ハ往時露西亞國ノ領地ニ屬セシト雖モ一千八百七十六年薩哈連島ト交換シテ爾來日本領ニ屬セシナリ本群島ノ面積ハ六千四

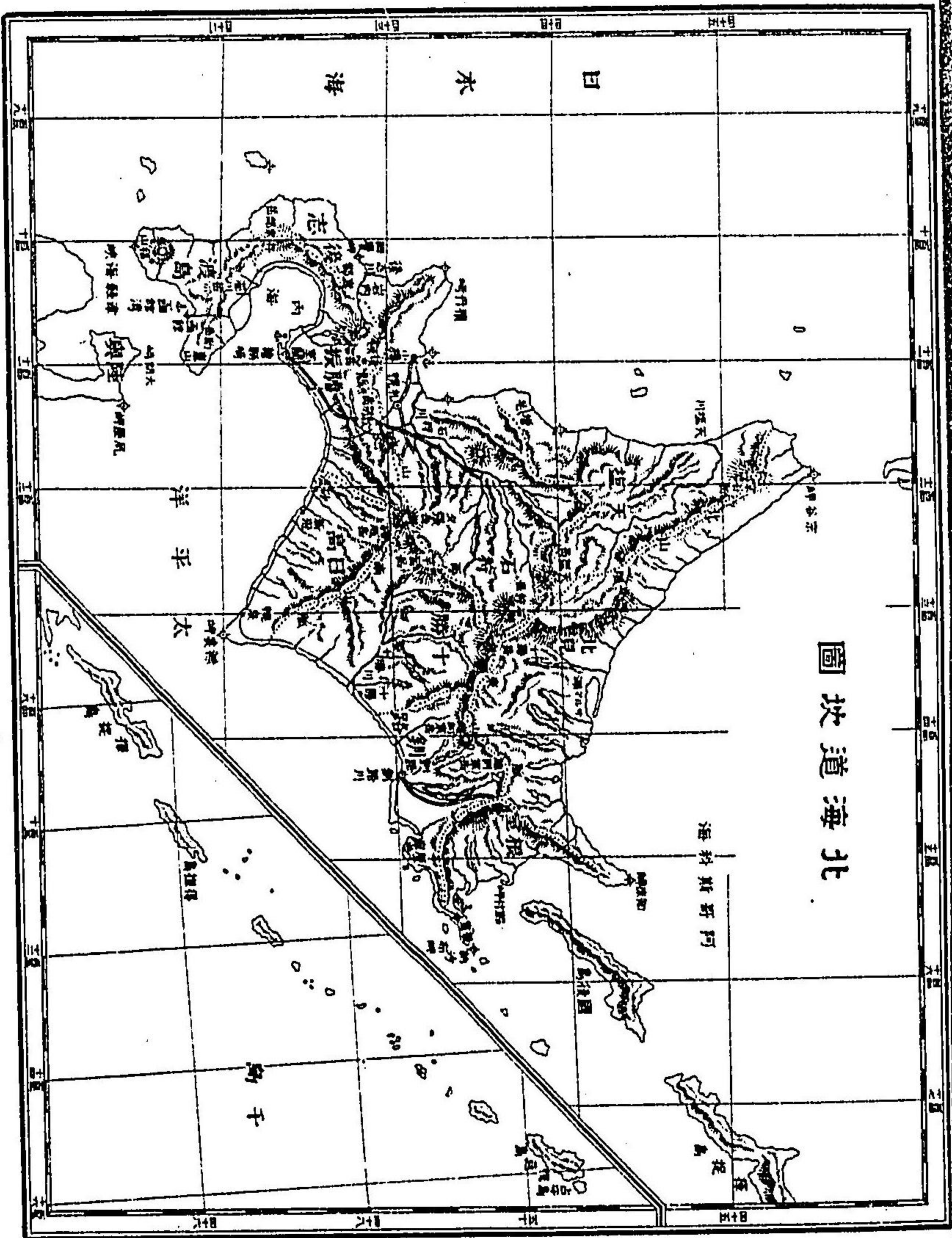
百五十六方哩ニシテ現時總テ此群島ヲ千島ト改稱セリ故ニ此小冊ニ於テ全島ニ關シ記述スルルハ同名稱ヲ適用スヘシ

四 他ノ諸島

前記北海道二部ノ外ニ蝦夷地沿岸ニ數多ノ島嶼アリト雖モ江差ヨリ北方ニ當テ本道西海岸沖ニアル奥尻島ヲ除キ特ニ注目スヘキモノナシ奥尻島ハ實ニ面白キ島ナリ何トナレハ日本帝國中ニテ飲酒ヲ禁シ居ル一地方ナレハナリ該島ノ長サ十四哩ニシテ最モ廣キ處ハ七哩人  
民ハ専ラ漁業ヲ營ムモノニシテ一千八百九十二年ニ其數二百〇九人ナリ  
巡査三名ヲ以テ該島ヲ保護ス一千八百九十一年中ニ該島ニ於テ縛ニ就キタルモノ僅ニ三名アリ即チ巡査一名ニ付一名ノ比例ナリ該島ノ面積ハ最近ノ測量報告ニ依ルルハ六十一方哩餘ナリ

五 北海道地形

北海道ハ實ニ現火及ヒ熄火山ノ巢窟ト云フヘシ蝦夷地ニ十八餘ノ現





火山アリ千島群島中國後、擇捉、色古丹ノ三島ニ十四坐ノ火山アリテ尙  
ホ千島諸島中ニハ總テ三十ヶ山アリト假定スルキハ總數六十二ヶ山  
ノ多數ナルヘシ之ヲ以テ世界各地方ノ火山ニ比較スルキハ北海道ハ  
極メテ震災ノ多キ地方ナルヘシト推測セサルヘカラス然レモ決シテ  
如此患ナク却テ日本内地ニ於ル如ク屢震災ノ虞アルコトナキ而已ナラ  
ス曾テ強震セシコトナシ

#### 六 山嶽

北海道ハ日本帝國内各地方ニ等シク山嶽多シ而シテ此ノ如キ國ハ必  
ス優美ナル景色ニ富ムカ故ニ此地方ニ巡遊スルハ大ニ價値アルナリ  
斯ク山嶽多キ地方ナリト雖モ亦タ誤テ原野平地ニ乏シキ地方ナルヘ  
シト臆測ヲ降スヘカラス本道ニ於テハ廣漠タル原野ノミニテ十二億  
三千百七十万一千百三十四坪ノ地積アリト算定セリ一坪ハ六尺ハ山脈ハ日  
本内地ノ山脈ノ高度ニ及フモノナシ蝦夷地ニ最モ高キ山嶽ハ三ツア

リ之ヲ舉クレハ「ヌタブカウシベ」山ナリ高サ大約七千三百尺、オブタテシケ山高サ六千五百尺及ヒ「ユウバリ」山ニシテ高サ六千五百四十尺ナリ加フルニ「熄火山」ニシテ從來日本人ハ後方羊蹄山ト稱スルモノアリ然レモ此山ノ眞ノ名稱ハ「マツカリツブヌプリ」ト稱スルモノニシテ日本古史ヲ按スルニ此名稱ノ意味ハ北部富士山ノ義ナリ之ヲ遠望スレハ景色佳美ニシテ近傍諸山ノ中ニ秀テ形チ恰モ富士山ニ彷彿タルヲ以テ視ルモノヲシテ眞ノ富士山ヲ想起セシムヘシト雖モ其高サニ於テハ六千四百有餘尺ニ過キスシテ固有富士山ニ比較スルキハ其半ハニ達セス嶽頂ヨリ四方ヲ眺望スルキハ遠近ノ山海目睫ノ間ニ入り甚佳絶ナリ但シ道路ナキカ故ニ登山スルコト頗ル困難ナリ

## 七 開墾ニ適スル土地

北海道ハ多分火山質ニシテ山嶽多キヲ以テ或ハ耕作ニ適スル土地少ナク又地質ハ膏腴ナラスシテ且冬季ハ酷寒ノ季長ク夏季ハ短クシテ爲メニ艸木繁生セサル無用ノ土地多カルヘシト推測ヲ下スモノアラシ然レモ夏季ハ諸種ノ植物繁茂シ山地ハ良材ニ富ミ森林ノ面積ハ六億六千五百二十二万九千七百十坪ノ多キヲ算ス艸地モ亦充分ニシテ牧場ニ適スル地積ハ十一億七千三百〇六万五千四百五十二坪アリ既墾地ハ四万一千四百五十三町一町ハ三千方尺即チ八千方尺ニシテ尙ホ開墾ニ適スル土地ハ九億八千六百七十五万七千五百九十七坪餘アリ加フルニ又適宜ニ排水スルキハ尙ホ開墾ニ適スル土地二億七千六百十四万二千二百七十四坪餘アリ而シテ本道ノ地質ニ適スルモノハ小麦、大麥、稗、麥、燕麥、粟等其他植物蔬菜ノ數種能ク繁生シ又菓實類ハ林檎、梨、梅、覆盆子、ゴースベリイ、木、蔓莓、草蔓莓等能ク生熟ス札幌産ノ林檎、梨等ハ日本内各地ニ於テ大ニ購求スルモノニシテ之ヲ他國ヨリ輸入スルモノニ比シテ遙カニ優レリ

## 八 氣候

蝦夷地ハ本州ニ比シテ冬季<sup>ニ</sup><sub>ハ</sub> 沍寒ナルハ無論ナリ然レモ内部ニ於テハ  
 大氣乾燥ニシテ健康ニ適シ寒冷ノ度モ稍薄ク年中四ヶ月乃至五ヶ月  
 間ハ雪ニ蔽ハルト雖モ夏季ハ頗ル温暖ニシテ氣候ハ實ニ爽快ナリ而  
 シテ醫師ニ於テハ香港及ヒ支那各地ニ居留スル歐米人並ニ日本南部  
 ニ居留スル外國人ニ於テ健康攝養ノ爲メ巡遊スヘキ土地ナリト常ニ  
 薦譽スル處ニシテ記者ニ於テモ蝦夷地ノ氣候爽快ナルヲ證スル處ナ  
 リ何トナレハ自ラ病痾保養ノ爲メ一千八百七十七年中當道ニ渡航セ  
 シニ病痾ノ爲メニハ季候最モ利益アルヲ見レハナリ札幌ニ於テ一千  
 八百九十年ヨリ九十一年ニ至ル四季平均ノ溫度ヲ舉タレハ左ノ如シ  
 春季ハ攝氏 六三六 夏季ハ同 一八五八  
 秋季ハ同 一〇二 冬季ハ同 四一六  
 右ノ如クナルヲ以テ北海道ノ氣候タル不快ナルヨリ寧ロ爽快ナルヲ  
 表スルニ足ルヘシ

九 河水

蝦夷地ハ水利宜シク土地ノ濕浸スルヲ恐ラクハ他國ニ比類ナキ處ト  
 ス河川細溪甚タ多クシテ加フルニ美麗ナル湖水小湖モ亦多シ北見膽  
 振釧路等ノ諸國ニ於テハ隨分廣大ノ沼池アリ河川ハ長サ十五里一里  
ニ哩半  
ニ近シヨリ乃至九十六里ノモノアリテ其數三十三ニ下ラス濕地ト沼  
 地ハ二億七千六百〇六万八千三百二十四坪アリ當道ニハ又礦物水ト  
 溫泉多シ湖水河川ニ種々ノ魚類水鳥多ク爲メニ遊獵者ノ快樂ト運動  
 ニ於テ大ナル便宜ヲ得ヘシ蝦夷地中最大湖ハ北見國ノ「猿淵湖」膽振國  
 ノ「支笏湖」及ヒ洞爺湖釧路國ノ「釧路湖」等ナリ小ナル者ハ釧路國ノ「亞寒  
 湖」及ヒ駒ヶ嶽麓ニ在ル「葦菜湖」湖面積ヨリ大凡三  
時間ノ旅行ナリノ如キハ最モ巡視スル  
 價値アルモノトス河川ニ至テハ小ナルモノヲ除キ最大ナルモノヲ舉  
 クレハ石狩川ニシテ其長サ凡九十六里天鹽川ハ凡七十四里及ヒ十勝  
 川ハ凡五十三里ナリ石狩國ノ佳景ヲ眺望スルニハ札幌ヨリ旅行シテ

幌内炭山ヲ巡視シ又ハ室蘭ヨリ汽車ニテ札幌ニ至ル途上ヲ最モ宜シトス札幌ニ於テ過ル五ケ年間毎年平均ノ雨降ハ一〇二九四、エム、エムナリ

十 艸木類

蝦夷地ハ日本帝國内他ノ地方ニ對シ特種ノ艸木ヲ生スル地ナリトハ既ニ故カピテン、ブレキストン氏及ヒ其他ノ記明スル處ニシテ尙ホ現今其主意ニ就キ同氏ノ説ヲ明確ナラシムル爲メ日本紳士ニ於テモ研究スル處アリ殊ニ農學士宮部氏ハ左ニ掲クル處ノ樹木、灌木、雜草ハ北海道ニ發見セシモノニシテ日本内地ニ於テハ未タ曾テ見サル處ノ種類ナリト記述セルモノナリ

(ア) 樹木

日本名

アベイス、サカリネンセス、マスタース  
アセア、ミヤベー、マセム

トドマツ  
クルビイタヤ

クラタイグス、コロロサーカ、マセム  
ラリス、ダヒリカ、トルス、ワル、ジャボニカ、マセム  
ピセア、アジャネンシス、ヘシチ  
ピセア、グレイニ、マスタース

イゾラーサンガシ

グイマツ

イゾマツ

アカイゾマツ

(ベ) 灌木

ダフネフヘリユム、ヒミレ、マキセム  
ダフヘン、ゼンインシス、アキセム  
ロニセラ、マキセモウユクジ、ルバ  
マイリカ、ガール、エル  
リベス、ラキセフロリユム、ブルシ  
ロドデンドロン、バウエフオorium、アド

イゾユヅリハ

ナニワヅ

ベネバナ、ヒヨウタンボク

イゾ、ヤマモノ

ジャウヤ、スグレ

イゾ、ムラサキツ、チ

(セ) 年草

アネモン、デコトマ、エル

アウシ、キナ

アルテミシア、サクロリウム、ワル、ラテフォリヤ、レデブ  
 イワヨモギ  
 カルダミネ、イゾインシス、マキセム  
 イゾワサビ  
 クレマテス、フオスカ、トルヂ、ワルイゾインシス、ミヤベ  
 クロバナ、ハンソジユル  
 レリユム、ダフリカム、ガウル  
 イゾノスカシユリ  
 ルブス、チャマイモルス、エル  
 ホロムイイチゴ  
 ステラリア、イゾインシス、マキセム  
 イゾフスマ  
 ウユララ、イゾインシス、マキセム  
 イゾノコスミレ  
 蝦夷地ニ生スル羊齒類ニシテ「アスピデユーム、フラ克蘭ス、スワルツ」  
 ノ外總テ羊齒類ハ又日本ノ本地ニ於テモ生ス此種類ハ亞細亞、歐羅巴  
 及ヒ北亞米利加ニ於テモ亦繁生スルモノナリ  
 植物中艷麗ナル花ニシテ最モ旅行者ノ注目ヲ誘フモノハ左記ノ類ナ  
 リ而シテ艸木ノ部ニ就キ再閱スルノ煩ヲ避ケン爲メ茲ニ之ヲ追載ス

一 百合類

レリユーム、グレイネ、フル、スクム

ウバユリ

レリユーム、アウエナセウムノフキスチ

クルマユリ

レリユーム、ハンソネ、バーケル

オウ、クルマユリ

二 黒百合

フリテラリア、カムチャチセンシス、ガウル

クロユリ

三 日百合

ヘメロカリス、ドモルタイレ、モル

ヒメ、クワンゾウ

ヘメロカリス、ミノル、ミール

キスゲ

四 谷百合

コンワラリヤ、マジヤリス、エル

スズラン、又ハ、キミカケソウ

五 蘭ノ類

ヲルキス、アリストタータ、フエスチ

ハクサンチドリ

カランデ、デスコロル、リンドル

イビネ

カランデ、トリカリナータ、リンドル

サルメン、イビネ

十六

六 「レデース、スレパース」ノ類

セープリペデユーム、ジヤボニクム、テエチ

クマガイソウ

セープリペデユーム、マクラントム、エスウ

アツモリソウ

セープリペデユーム、ガツタトム、エスウ

クシロ、アツモリ

七 薔薇ノ類

ロサ、ルゴサ

ハマナシ

ロサ、アセキラリス、リンドル

タカネバラ

ロサ、ムルテフロラ、トナム、ワル、アデノフオロ

ノイバラ

八 紫陽花ノ類

ハイドランゼー、バニキラタ

ノリノキ、又ハ、サビタ

ハイドランゼー、ホルテンシア、ワル、アクミナタ、ア、グレイ

アマチャ

又蔓紫陽花ノ類

ハイドランゼー、スカンデンス、マキス

ウルアヂサイ

シゾフフラグマ、ハイドランゼーオイデス

イワカラミ

九 早春ノ花類

アドネス、アムレンシス、レゲル

フクジュソウ、又ハ、マンサク

アネモネ、カデアナケグ

ウラベニ、イチゲソウ

レシチトン、カムチャチユンシス、スコット

ミヅバシヨウ

グランセデユーム、バルマルム

シラネアオヒ、又ハ、ヤマボタ

コレダリス、アンビギア、チャム、イト、シレフト

イウゴサク

マダノリア、コブス

コブシ、又ハ、ヒキサクラ

十 石南類及ヒ「アザレアス」

ロドデンドロン、ブラケイカルビユム、ドン

シヤクナゲ

ロドデンドロン、タルウエフオリーム、アデ

イゾムラサキツツヂ

ロドデンドロン、クリサンデウム、パール

キバナシヤクナゲ

十七

ロドデンドロン、アルブレチテ、マキセム  
ロドデンドロン、インデクム、スウユト、ワル、コインブ  
フエレ、マキス  
ロドデンドロン、カムチャテクム、パール

ムラサキヤシオツツヂ  
ヤマツツヂ  
イゾツツヂ

十一 食スヘキ實ヲ生スル植物

アクテネデア、アルグタ、ブランチ  
フラガリア、イラリヤル、イール  
クブス、バルウユフォリース、エル  
クブス、イダクス、エル、ワル、ストレゴソス、マキセム  
クブス、フオイネコラシユース、マキス  
クブス、オクセデンタリス、エル、ワル、ジヤポネクス、ミヤベ  
ケベス、ベトラクム、ウルフ、ワル、トメントソム、マキス  
ケベス、ルブリユム、エル、ワル、ブラクテヲソム、マキス

コクワ  
シロバナノヘビイチゴ、アイヌ、フレブ  
ナワシロイチゴ  
イゾイチゴ  
ウラジロイチゴ  
クロイチゴ  
イゾスグリ  
トカツスグリ

十二 有毒ノ菓實ヲ生スル植物

(ア) コリアリア、ジヤポニカ、ア、グレー  
此ノ灌木ハ高サ二三尺ニシテ川端ノ細石多キ地ニ茂生スルモノニシテ單純ナル二葉相對シ多肉ニシテ五角ノ赤色ナル菓實ヲ長朶ニ生ス其菓實ハ甚有毒ナリ

ドクウツギ、又ハ、カワラウツギ

(ベ) ロニセラ、モローウエ、ア、グレイ

フタコロビ、ブシダマ、又ハ、フタコシバ

此灌木ハ渡島膽振、後志及ヒ石狩國沿岸ニ生スル四尺乃至六尺ノ高キモノニテ葉ハ單純相對シ全ク長圓形ニシテ多毛ナリ實ハ豌豆ノ大サニシテ莖ノ端ニ二粒相對シ赤色ニシテ奇麗ナルモノナリ曾テ當道ニ巡遊セシ婦人誤テ此菓實ヲ食シテ非常ニ困難セシコアリ依テ他日ノ災厄ヲ避ケンカ爲メ茲ニ此ノ有毒植物ノ説明ヲ付ス

十一 動物

北海道ト固有日本地ニ於ル艸木トノ間ニ差異アルノミナラス動物ニ於ルモ亦差異アルナリ札幌農學校ニ在ル小寺氏ニ於テ明記スル北海

道特殊ノ胎生獸及ヒ鳥類ノ目錄左ノ如シ

(ア) 胎生獸

カネス、アアマリアリス、イリアナ  
 カネス、スプ、ブラツク、フオックス  
 インハイドリ、マリナ、イルキスル  
 ムステラ、ブラチウラ、クレイ  
 ムステラ、スプ  
 トリセチヨス、ロスメロス、エル  
 ウルソス、アルクトス、エル  
 ウルソス、マリテムス、ゼソム  
 タミアス、ストラトス、エル

日本名

アイヌ、イヌ  
 クロキツネ  
 ラツコ  
 イゾテン  
 イゾイタチ  
 セイウチ  
 アカクマ  
 シロクマ  
 シマネヅミ  
 シマスネガ

(ベ) 鳥類

ビーボ、ブレキストン、シイブ  
 ドライヲコプス、マルテムス、エル  
 ガルルス、ブランデテ、イウエルソン  
 ゲセヌス、カヌス、ジン  
 ペキユス、ミノル、エル  
 テトラステス、ボナセアネス、エル

十二 礦物

日本人ニ於テ北海道ヲ常ニ日本ノ金庫ト稱スルヲ聞知スルハ不可思議ナルヲニ非ラス而シテ眞ニ其名稱ヲ付スヘキ數多ノ原由アリ其故何ンヤ即チ北海道ハ諸礦物ニ富ミ又沿海ニ於テハ無數ノ魚族群聚シテ夥多ノ供給アルカ爲メナリ北海道ニ産出スル礦物ノ最モ緊要ナルモノハ豊富ナル石炭、硫黄、銀、鉛、銅、石灰石、砂金、磁鐵砂其他各種ノ酸化金屬及ヒ粘土、石腦油等ナリ然レモ當時開坑ニ從事セルハ石炭ト硫黄ノ



ミニシテ石炭坑ハ幌内札幌ヲ距十六里幾春別札幌ヲ距十八里ヲタウシナイ空知川近傍ニアリ夕張ハルトリ釧路ヨリ一里及ヒ白糠釧路ノ西七里ニ於テ開業セリ硫黄山ハ釧路市街ヲ距ル二十四里ニ在ル「アツサノホリ」岩内ノ南方凡五里ニ在ル「イワウ」ノホリ「北見」根室兩國境ニアル斜里及ヒ千島國國後島南方ニ在ル「イシヘシナイ」等ナリ

十三 魚類

北海道全島ハ周圍海濱ナルカ故ニ數千ノ魚漁者年中數月間充分ノ漁業ヲ爲シ以テ能ク其勞働ニ報ユルニ足ルヘキ漁獲アリ且ツ獲ル處ノ魚類ハ日本内ニ於テ一般費消スルノミナラス支那沿岸ニ接近セルカ故ニ各種ノ乾魚並ニ昆布等ヲ常ニ該國市場ニ輸出スル便益アリ北海道直近ノ沿海ニ於テ重要ノ水産物ハ鯨、鮭、鱈、鮪、鮓、鮠、魚、火魚、鰯、比目、魚、烏賊、鱧、鮑、牡蠣、海扇、蟹及ヒ昆布等ナリ一千八百九十年海産物總價格ハ七百九十六万四千六百六十九圓ナリ鯨及ヒ鰻ノ漁獲ハ専ラ魚油ト肥

料トヲ得ル目的ナリ鮭、鱈等ハ多ク鹽藏シテ内國ノ需用ニ供シ鱈及ヒ其他ハ主ラ乾製トナシテ支那人ノ最モ美味トシテ嗜ム處鱧、鮓ノ如ク之ヲ該國へ輸出スルモノ多シ

十四 北海道通商ノ關係

茲ニ舉クル處ノ北海道地形等ニ於ル略説及ヒ最重ノ産物撮要ヲ以テ充分本道ノ豊富ナルヲ表示スルニ足ルモノニシテ且日本帝國他ノ地方ニ對シ最要ノ關係ヲ證スルモノナリ加之當時既ニ興起セシ産業ノミナラス現ニ移住民ノ増加速ナルヲ以テ視ルキハ日本人民ノ活潑ニシテ本道ノ緊要事業ニ從事スルヤ論ヲ埃タス而シテ又北海道タル實ニ露國並ニ清國ト相接近シタル位置ナルカ故ニ將來必ス尙ホ一層緊要ナル關係ヲ惹起スルハ無論又他日西比利亞鐵道ノ完全ナル事業成ルニ及ヒ又ハ亞米利加ヨリ上海ニ直航スル汽船等航路ヲ津輕海峡ニ轉シテ函館港ニ四時間ニテ入寄港スルニ至ラハ其時ニ當テ日本人民

ノ通商上ニ對スル熱望頓ニ加ハリ自然本道内地ノ發達ヲ促スモノ之ニ若クモノアラサルヘシ然リ而シテ斯ノ如ク北海道ノ富源タルヲ視ルキハ將來必ス隆盛繁榮ヲ致ス一ハ期シテ見ルヘキナリ

## 第二章

## 行程記

## 一 交通ノ事

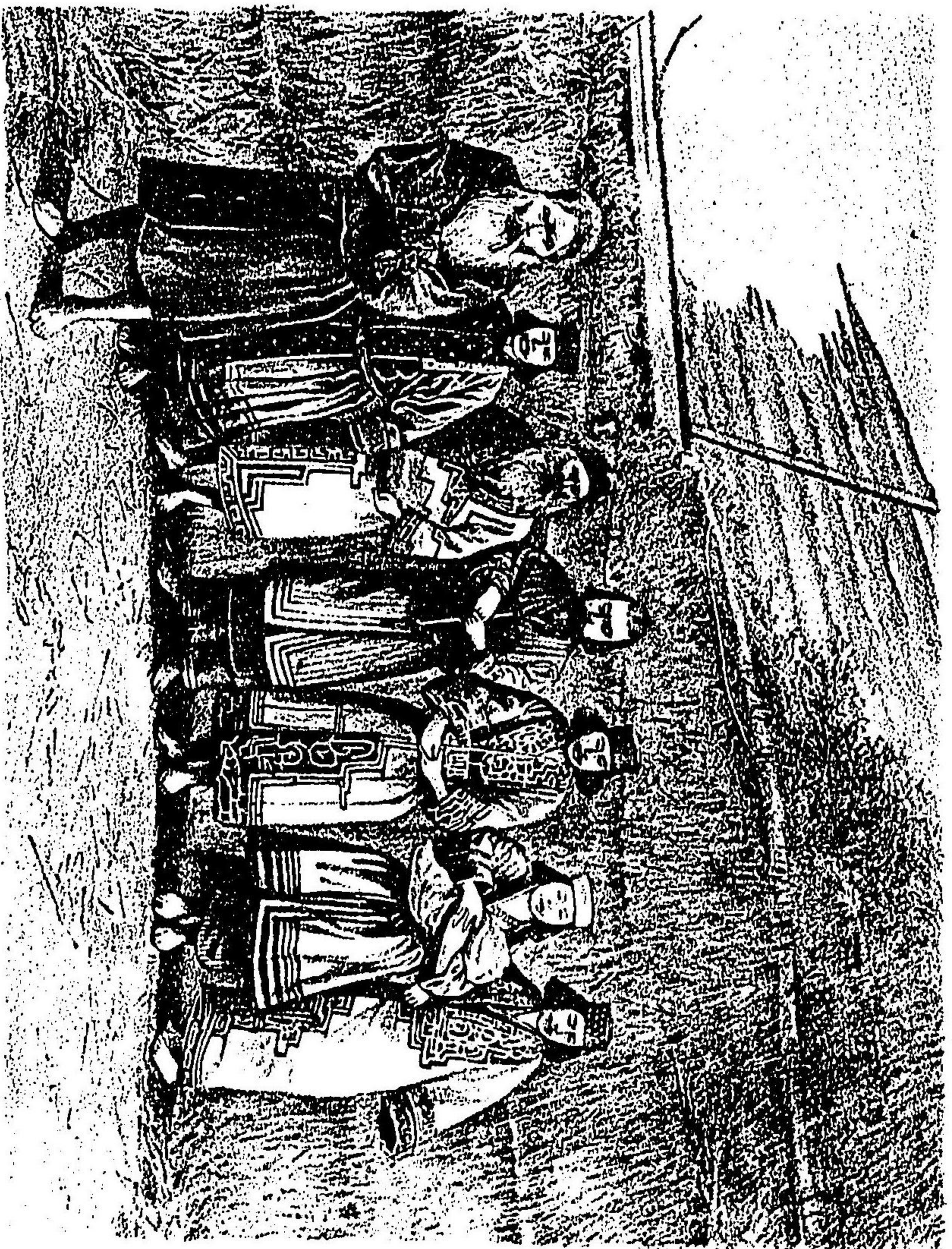
北海道ト合衆國加奈陀及ヒ歐羅巴トノ間ニ第一等郵便汽船ヲ以テ迅速且安穩ナル交通ノ便宜アリトス而シテ從前ハ殆ント穿索ヲ爲サル地方ナリシト雖モ今日ニ於テハ本道ニ巡遊ヲ試ント欲スル外國遊歷者ノ爲メニ頗ル便利ヲ見ルニ至レリ然リ而シテ本道ニ到ラントスルニ當テハ桑港「ワンコーヴァー」香港又ハ上海ニ於テ乘船シ直チニ長

崎神戸或ハ横濱ニ向航シテ他ノ汽船ニ乘換ヘ本道函館又ハ小樽港ニ達スルヲ得ルナリ然レモ旅行者ニ於テ根室及ヒ千島ニ到ラント欲スルモノハ函館ニ於テ船便ヲ求ムルヲ以テ至便トス又同港或ハ札幌ヨリ陸行シテ根室ニ到ルヲ得ルナリ而シテ同地ヨリ汽船ニ乘シテ千島ニ到ルヘシ而シテ又日本内地ノ重ナル海港ヨリ陸路旅行ヲ望ムモノニハ長崎神戸東京ニ連續スル鐵道ノ便アリテ東京ヨリ大陸ヲ通過シテ陸奥國青森ニ直行スルヲ得ヘシ而シテ同地ヨリ日本郵船會社汽船ニ乘シテ海路五十九湮ノ間津輕海峽ヲ横キリ函館ニ達スヘシ以上ノ如クナルカ故ニ今日ニ至テ蝦夷地ニ旅行スルニ最早從前ノ如ク困難且危險ナルコアルナシ函館ニ到着セシ上各地方ニ旅行スルハ甚タ便宜ニシテ他各國トノ交通ノ便ニ於ルモ迅速ニシテ且確實ナリ道路及ヒ電信ニ於ルモ當時殆ント蝦夷全島ニ通シ郵便局事務ニ於テモ意外ニ進歩シテ各村落ニ至ラサル處ナシ故ニ本道ニ居住スル外國人及巡

遊者ハ電信ヲ以テスルモ一日ニシテ各國都府ハ無論各所ニ通信スルヲ得又郵便ヲ以テスルモ新紐育或ハ龍動ニ六週日以内ニ通信スルヲ得ヘシ實ニ北海道ニ於ル交通ノ事業迅速ニシテ且完全ニ至リタルモノト云フヘシ

二「アイヌ」人ノ事

學術上及ヒ歡樂保養ノ爲メ北海道ニ旅行スル巡遊者ニ最モ勸誘スルモノハ本道特殊ノ荒漠タル好景色ト遊獵ノ快樂トヲ併セ「アイヌ」人即チ當道土着人種ヲ見ルヲナリ然レモ此人種タル漸次消滅ニ至ランモ知ルヘカラス且此人種ハ特別ナルモノニシテ曾テ其員數モ夥多ニシテ往時日本全國ニ居住セシト雖モ現今其數ハ前述ノ如ク一万六千七百六十五人ニ過キズ而シテ尙ホ減少スルノ勢ナリ日本ニ巡遊スルモノハ可成的同人種ノ一事ニ就テ見聞スルニ怠ラサルヘシ同人種ハ大概數年ヲ出テスシテ消滅スル歟否ラサレハ移住民ト混交シテ終ニ現



俗風之人土道海北

今ノ日本人ト區別シ得ヘカラサルニ至ルヤ論ヲ俟タサルヘシ北海道ハ万國中特リ歐羅巴人ノ感化ニ傳染セサル一地方ナリ何トナレハ露國領地ニ居住スル土人ノ如キハ當時全ク露國ノ風習ニ歸セシナリ故ニ北海道ニ於テハ古代ヨリ帝國ニ在ル最舊ト最新ノ人民ニシテ各自ノ作法ニ於ルモ全ク異種ニシテ即チ此新民ハ他ニ異リテ才智前見ハ勿論無學ニシテ輕卒且怠惰ナル舊民ニ對スルニ勤勉ナル事業ニ於テ遙ニ勝レル兩人種ヲ見ラルヘシ而シテ又アイヌ人ノ漸次消滅スル勢ト及ヒ同人種ノ從前專有シ來ル處ノ土地ノ減少スルトハ現ニ刻薄ノ待遇ニ依ルニ非ラス殺戮ニ依ルニ非ラス或ハ知覺ナキ放蕩ニ歸スルニ非ラス故ニ自ラ進ンテ發達シ事業ヲ起スキハ日本人ト共ニ幸福ニ生育進化スルヲ得ヘシト雖モ自信力ト確固タル勤勉力ニ乏シキヲ以テ自然退歩スルヲ見ルニ足ルヘシ而シテ此ノ如キ無氣力ノ人民ニ對シ必ス將來何等ノ爲メニスル處ノモノヲ爲サ、ルヘカラサルヲ希望

スルナリ日本人ニ於テモ今ヤ「アイヌ」人ニ對スル義務ト責任トヲ覺リ大ニ爲ス處アラントシテ該人種救済ノ目的ヲ達センカ爲メ一會社ヲ設立セルヲ以テ他日該社ノ爲ス處大ニ見ルヘキモノアラシテ外人ニシテ「アイヌ」人ノ自家ニ接息スルヲ見ント欲スルモノハ函館ヨリ火山灣ノ有珠又札幌ニ在テハ千歳ニ巡遊シテ其狀形ヲ視ルヲ得ヘシト雖モ尙ホ能ク該人等ノ狀態等ヲ視ルヲ望ムキハ少シク時日ヲ費シテ日高國「ピラトル」ニ到リテ詳細ニ觀察スヘシ該地ハ往昔「アイヌ」人ノ首府ニシテ最モ其形跡ヲ表スルニ足ルヘキ一村落ナリ又其周圍近傍ハ景色最モ美ナリ

### 三 遊獵

#### (ア) 漁業ノ事

北海道ニ巡遊スル遊獵者ハ本道到ル處ノ河川ニ魚類充滿シテ鱒魚ノ脊上ヲ歩行シ足ヲ濡ラサスシテ河川ヲ徒涉スルヲ得ルモノト推測ス

ルモノアラン右等ハ期望スヘカラサルモノナリ又漁業ニ出ルニ方テハ熊害ヲ禦カン爲メ必ス銃炮ヲ携帯スルヲ要スヘシト想像スヘカラス實ニ北海道ニ於テハ此ノ如キ形狀ナシ又遊獵者ハ常ニ好獵獲アリテ本意ヲ遂クルモノニ非ラス從來數多ノ遊獵者ノ獲物ナクシテ失望セシモノ多分ナリ是レ多クハ季節ヲ過ツテ來ルモノ或ハ適當ノ場所ニ到ラサリシモノナリ今記者ニ於テ能ク記憶スル處ニ依ルニ或ル紳士曾テ二三ノ鱒ヲ獲ンコノ望ミヲ以テ數日滞在セシコアリシト雖モ其場合ニ於テハ只僅少ノ小魚ヲ獲シノミニシテ一ノ鱒魚ヲ漁セス大ニ失望セシコアリ然レモ同紳士發程セシ後二時間ヲ過キスシテ數千ノ鱒魚川ニ群集シ夜ニ入りテ「アイヌ」人ハ數百尾ヲ漁獲セシコアリ之レハ「ピラトル」ニ於テ六月上旬ノ出來事ナリキ而シテ蝦夷地ニ於テ鱒魚漁獲ノ好季節ト云フハ六七ノ兩月ニアリ又此季節中該魚ノ群集スル河川ハ火山灣ニ於テハ遊樂部長万部有珠東沿岸ニ於テ幌別、敷生、沙

流、釧路其他東沿岸ノ諸川西海岸ニ於テハ石狩川、後志川等ナリ  
 此遊獵ニ關シテ「モルレイ氏ノ袖珍書」ニ記スル處ニ據ルキハ遊獵ニ二  
 種アリテ一ハ歐羅巴人ノ「サルモン」鮭魚トシテ知ラレタル鮭魚ナリ又  
 其一ハ「サルモ、ジャポネコス」ナル鮭魚ナリ即チ鮭ハ大形ノ「サルモン」ニ  
 シテ秋季ヨリ冬季ノ初メニ至リ夥多群集シテ河口ニ登ル而シテ蝦夷  
 地北部ノ諸川ニ於テハ鳥鴉或ハ熊ノ餌食ニナル程充分ナリ其鮭魚ノ  
 重量ハ三十磅ニ至ルモノアリト雖モ釣魚者ノ遊獵物ニ非ラス何トナ  
 レハ大平海其他ノ「サルモン」ニ異リテ蠅ヲ食セス又他ノ餌ニ付カサル  
 カ故ナリ又鮭魚ニ種類多シト雖モ總テ「トロート」鱒ノ性質ニシテ各  
 種共遊獵魚ナリ鮭魚ハ五月ヨリ八月ニ至ルマテ河川ニ登ルヘシト雖  
 モ又河水ノ温度ニ依ルヘシ鮭魚ノ最良タルハ温度五十度ヨリ六十五  
 度ニ至ル季間ナリトス五十度以下ニ在テハ漁獲ナシ重量八磅ノモノ  
 ハ最大ニシテ五磅乃至六磅ノモノハ通常ナリ

## 四 遊獵

## (ベ) 銃獵ノ事

熊ヲ銃獵スル季節ハ春ノ始メト秋ノ終リニアリト雖モ獲殺スルニ最  
 モ好キ場所ヲ擇ムニ當テ地方ノ「アイヌ」人タル獵師ニシテ該獸類ノ隠  
 所ヲ熟知セルモノ、注告ヲ用ユルヲ良トス故ニ「アイヌ」人ノ案内者ナ  
 ク熊獵ニ行クモノ稀ナリ又熊ヲ獲殺セントスルニ必スシモ常ニ道路  
 ナキ森林ニ別ケ入ルモノニ非ラス已ニ一千八百九十二年ノ春蝦夷地  
 東南ノ海岸札幌マテノ大道ニ沿フ登別ニテ二頭又白老村ニテ四頭都  
 合六頭ノ熊ヲ獵獲セシハ皆「アイヌ」人ノ村落近傍ニ於テセシナリ千  
 島群島中擇捉國後ニ於テハ熊ノ類最モ多シ又札幌ヨリ幌内ニ到ル線  
 路ニ於テ屢、熊ノ足跡ヲ見ルコトアリ然レモ北海道ニ於テ銃獵スルニ方  
 テ更ニ一ノ折耗アリ何ソヤ銃獵免狀之レナリ旅行免狀ヲ得ルモ熊ヲ  
 銃殺スルヲ免サス且ツ銃獵免狀ノ效力ハ北海道中只一ノ開港場タル

函館ヨリ各方二十五哩ノ遊歩規程外ニ及ホスヲ得ス依テ本道ニ巡遊スルモノニシテ遊歩規程外ニ於テ銃獵ヲ試ミント欲スルモノハ斯ル不都合ヲ省カン爲メ官衙ニ就キ請求シテ許可ヲ得サルヘカラス又學術上及ヒ報告等ノ爲メ旅行スルモノ、利益ノ爲メ注告スルモノアリ即チ記者ハ函館在留ノ外國人ナリ然レモ或ル報告等ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ札幌或ハ根室ニ在ル官衙ニ質義スルキハ直チニ其報告ヲ得ルヲナリ加之北海道ニ關スル行政上或ハ人民其他諸般ノ公益ニ關スル事項ハ記者自ラニ於テモ之ヲ官吏ニ質問スルキハ其官吏最モ鄭重ニシテ常ニ其請求ニ應スルヲ保スルナリ

五 旅裝

(ア) 衣服ノ事

本道ヲ巡遊スルニ要スル旅裝ハ日本帝國内他ノ地方ニ於テ要スルモノニ異ナラスト雖モ冬季ニ至リテハ防寒ニ足ルヘキ衣服ヲ要ス而シテ又夜間ノ用意ノ爲メ臥單及ヒ空氣枕ヲ携帶スルハ大ニ便利ナルヘシ若シ一般ノ村落ヲ離レ「アイヌ」人ノ居住スル場所ニ巡視スルキハ必ス蚊張ヲ携帶セサルヘカラス該所ニ於テハ數種ノ此蠅實ニ巨多ナリ又蚤多クシテ特ニ歐米人ノ血液ヲ好嗜スルカ如キ有様アルヲ以テ蚤捕粉ノ必要ヲ感ス又石鹼一二片或ハ石鹼紙二三葉ト蠟燭二三包及ヒ筆墨紙ヲ携帶スルヲ失念スヘカラス殊ニ降雨等ノ無聊ヲ醫センカ爲メ一二ノ書冊ヲ携帶スヘシ前記ノ外ニ手巾タナヲ要スヘシ日本旅店ニ於テ供スルモノハ常ニ濡レタルノミナラス通常ノ汗巾アソビヨリ稍大ナルモノナリ乘馬ヲ望ムモノハ馬鞍及ヒ騎馬用衣服ノ用意ヲ爲スヘシ

六 旅裝

(ベ) 食物ノ事

日々善良ノ日本食物ハ各旅店ニ於テ調理シテ之ヲ給事スルモノアリト雖モ或ル地方ニ依テハ麵麩及ヒ牛肉ヲ得難キ處アリアイヌ村落ニ於テハ米鷄卵ニ





イヌ入ノ器具器械及ヒ日本ノ石器時代ノ遺物タル火石ノ鎗鋒箭ノ根石等ノ聚集竝ニ故カピテン、ブレキストンヨリ贈呈セシ蝦夷地ニ棲息スル鳥類ノ有益ナル蒐集モ亦一覽スルヲ得ヘシ然レモ該鳥類ハ保存ノ爲メ常ニ抽斗中ニ貯藏シアルカ故ニ必ス請求セサレハ之ヲ一覽スルヲ得サルヘシ

函館山ニハ登山スヘキノ價値アリ緩歩四十分ニシテ容易ニ山頂ニ達ス而シテ眺望廣クシテ且美景ナリ迂紆蜿蜒タル山脊ニ沿フテ悉ク通路アリ山頂ヨリ市街及ヒ港内ヲ眺瞰スル頗ル佳景ナリ港灣ヲ越シテ遙ニ北方諸山ヲ望ムキハ山頂ヨリ山脚ニ至ルマテ綠樹青草ヲ被ヒ其後部ニ高ク露出シタル火山駒ヶ嶽ノ頂上顯レテ實ニ絶景ナリ又南西南ヲ願望スルキハ日本大地ノ最端北部ノ地方近ク目睫ノ中ニ入り満目是レ佳景ヲ以テ填充セルカ如シ然レモ景色ノ最モ趣味アリテ佳美ナルハ水元ト稱スル山溪ヲ登リ其レヨリ稍左方ナル山頂ニ轉シテ眺

望スルニ勝ルモノナカルヘシ而シテ尙ホ進ンテ山脊ノ通路ヲ過キテ東方極端ニ至リ眺望スレハ亦更ニ美妙ノ好景ヲ呈スルヲ見ルヘシ

## 二 湖水及ヒ駒ヶ嶽

本道巡遊者ハ函館及ヒ近傍ニ於テ二日間ヲ費シ而シテ駒ヶ嶽ト稱スル火山ノ山脚ヨリ僅ニ二里ヲ距ル處ニ在ル葦菜湖ヲ巡視スヘシ葦菜湖ノ名稱ハ該湖中ニ茂生スル百合ノ一種「リムナン」テミユム、ハ該所ニ到ルヲチユムニシテ食品ニ用ユル植物ノ名ヲ取リシモ、ナリ該所ニ到ル函館ヨリノ距離ハ十七哩ニシテ常ニ往復スル馬車或ハ乘馬アリ該所ニ旅店二ヶ所アリト雖モ「丸三」ト稱スル旅店ハ遙ニ美ナリ而シテ又此順路ニ賴テ札幌ニ陸行セント欲スルモノハ森村マテ通シ乘馬ヲ備ヒ共ニ葦菜湖ニ一泊スルヲ便利ナリトス何トナレハ翌日火山ニ登ルキ亦乘馬ノ必用ヲ感スルコアルカ故ナリ但シ午前七時函館ヲ發程セハ午後一時葦菜湖ニ達ス午餐後十分時間ノ遊歩ニテ大沼ト稱スル二湖ノ内稍大ナル湖水ニ到リ夫ヨリ湖邊ヲ緩歩シ二三時間ヲ快樂ニ費

スヲ得ヘシ旅店ハ葦菜湖端ニ在リ湖水ノ岸ハ「モルレイ」氏ノ記セル如ク繁茂シタル艸木ニテ被ヘリ然レモ又湖中ニ數小島アリテ小舟ニテ乗出スモノ、爲メニハ目的ノ場所ヲ供シテ快樂ヲ與ヘリ又湖中ノ魚類ハ蟲ヲ以テ釣り得ルモ蠅釣ニ適セス翌早朝乗馬ノ用意ヲ爲シ騎馬ニテ火山ノ半腹迄登リ此處ニテ隨行者ニ乗馬ヲ托シ夫ヨリ半時間歩行シテ噴火口ニ達スルヲ得ヘシ但シ午前六時ニ旅店ヨリ發程スルキハ安慰ニシテ正午十二時ニ歸宿スルヲ得ヘシ而シテ午後三時乃至四時ヨリ森村ニ向テ出發シ到着ノ上ハ乗馬ヲ解放スヘシ然レモ森村ハ最モ趣味ナキ村落ナルヲ以テ寧ろ葦菜湖ニ於テ今一夜一泊スルヲ便利ナリトス而シテ翌朝七時ニ發程スルキハ午後一時ニ森村ヨリ室蘭ニ渡航スル汽船ニ搭乘スル充分ノ時間アルヘシ森村ニ於テ最良ノ旅店ハ「命室蘭」ニ於テハ「丸」ナリ

### 三 室蘭ヨリ「ピラトル」ニ到ル事

前述計畫ノ如ク旅行スルキハ第五日ノ午後ニハ札幌ヨリ陸路三十四里ヲ距ル室蘭ニ達スルモノニシテ即チ汽船ハ午後一時森村ヲ發航シテ午後凡四時三十分ニ室蘭港ニ投錨スヘシ室蘭ハ小市街ニシテ港灣ハ東方悉ク陸地ニテ圍ミ良港ナリト雖モ至テ小港ナリ又此處ニ札幌岩見澤、室蘭ニ全通スル鐵道線路アリ而シテ室蘭ニ到着ノ翌朝小舟ニ乗シテ港灣ヲ渡リ「イトツケレツ」<sup>ステーション</sup>ノ停車場ニ到リ是ヨリ四十哩ノ距離ナル苦小牧迄ノ乗車切符ヲ購フヘシ此線路ハ苦小牧ニ到ル途次鷺別、幌別、白老村ヲ經テ海岸ニ沿フテ通過シ悉ク平坦ナルヲ以テ愛スヘキ景色至テ尠ナシ然レモ「カンボク」ト稱スル處ニ長サ八百尺ノ隧道アリ又一里距テ「アイロ」ト稱スル處ニ二千尺ノ隧道アリ苦小牧ニ於テハ「金」ト稱スル旅店ハ最良ナルカ故ニ此處ニ諸荷物ヲ卸スヘシ但シ飲料水ハ好良ナラス注意スヘシ而シテ到着直チニ乗馬ヲ備ヒ三里ノ距離ニ在ル勇排<sup>ユウバイ</sup>ニ發程スヘシ然レモ三四日中必要ナル物品ノ外「ピラト

ルヨリ歸ル迄苦小牧ノ旅店ニ托シ置クヘシ勇拂ニ着シテ更ニ他ノ馬ヲ命シ而シテ晝飯ヲ喫スル間凡一時間ニ馬ヲ得テ鞍ヲ置キ總テノ準備整フヘシ乘馬ノ賃銀ハ土地ノ模様ニ依テ高下アルヘシト雖モ夏季中バ一里七錢乃至九錢ナリ又平地ヨリ山道ハ常ニ賃銀稍高シ而シテ速ニ馬ヲ命シ發程スルキハ勇拂ヨリサル猿拂ニ到ル路程大約六里ナルヲ以テ午後七時ニ達スヘシ「サルブツ」ハ「サル」河口ニアル一小村ニシテ敢テ撰ムヘキ旅店ナク悉ク同一ナルカ故ニ誤テ不良ナル旅店ニ投スルノ患ナカルヘシ但當地ハ間歇熱ノ流行スル地ナルカ故ニ特ニ飲料水ニ注意スヘシ而シテ夜分寢床ニ就ク前ニ「ピラトル」ニ往復スル乘馬ヲ備フコトヲ失念スヘカラス但シ其距離ハ四里ニシテ乘馬ヲ取扱フ者必ス隨行スヘシ然レモ其カ爲メ別段ノ費用ヲ要セス「ピラトル」ニ向テ翌朝七時ニ發程スルキハ同處ニ於テ休憩ト觀望ニ充分ノ時間ヲ得ヘシ到着ノ上酋長「ベンリ」ニ訪問スヘシ何トナレハ彼ハ外國人ノ爲メニ食

料ノ供給等諸事取扱ヒ方ニ經驗アルカ故ナリ然レモ該地方近傍ノ觀望ヲ了ヘサル前ニ彼レ全ク酩酊スルコトアルカ故必ス注意セサルヘカラス「ピラトル」近傍ハ景色極美ニシテ村落ハ可ナリ好ク設置セラレ「アイヌ」人ノ市街ヲ摸表スルニ足ルモノナリ故ニ之ヲ巡視スルノ價值アリトス又「ベンリ」ニ請フテ義經ノ社廟ヲ一覽スヘシ義經ハ英雄ニシテ往昔日本地ヨリ蝦夷地ニ逃奔シ「アイヌ」人ニ多ク要用ノ事物ヲ教授セシト云フ

#### 四 「ピラトル」ヨリ札幌ニ到ル事

「ピラトル」及ヒ近傍ノ地方徐々視察シタル後此地ニ只三十二戸乘馬ノ準備ヲ爲シ「サルブツ」ノ歸路ニ就クヘシ「サルブツ」ニ到着ノ晚又勇拂及ヒ苦小牧迄ノ乘馬ヲ命シ置キ翌朝八時ニ此地ヲ發程スルキハ十二時過キニ着スヘシ此里程九里ナリ然レモ此時ニ於テハ札幌ニ進行スル列車既ニ通過シテ乘車スルヲ得サルヘシ故ニ止ムヲ得ス此處ニ一泊シ翌朝

發程スヘシ但シ「ピラトル」ト唱フ處ハ二ヶ處アリト雖モ「ペンリ」ノ居住スル處ハ他ノ「ピラトル」ヲ距ル大約半里ニ在ルカ故注意シテ此處ニ巡視スヘシ苦小牧ヨリ札幌ニ到ル里程ハ六十七哩アルヲ以テ「イトツケ」レツプ」ヨリ總里程一百〇七哩ナリ苦小牧ヨリ岩見澤ニ到ル線路殆ント正北ニ轉シ而シテ岩見澤ニ於テハ札幌ニ進行スル汽車ニ乗換セサルヘカラス但此ノ處ニ到達スルマテノ線路ハ多分深林平原及ヒ沼地ヲ通過スルヲ以テ景色美ナラスト雖モ札幌ニ到ルニハ此線路ヲ以テ迅速且容易ナリトス岩見澤ヨリ札幌ノ間ハ景色漸々美ニシテ車窓ヨリ石狩川ノ絶景ヲ眺望スヘシ

#### 五 札幌

札幌ニ到着スレハ此處ニ先年行宮ノ爲メニ建設セルモノニテ豊平館ト稱スル最良ナル旅館アリ諸事亞米利加風ニシテ旅宿料ハ一日三圓ナリト雖モ又請求シテ特別調理ノ契約ヲ爲スコトヲ得日本旅店ノ上等

ハ吉田屋、山形屋等ニテ好キ半洋食ヲ供シ旅宿料一日一圓ナリ此地ハ北海道ノ首府ニシテ正シク「モルレイ」氏ノ記スル如ク往時ノ松前又近時ノ函館ニ於ケル如キ商業須要ナルニ依テ繁榮セシモノニ非ス全ク當聖代ニ於テ政府ノ命令ニ依リ創設セシ市街ニシテ開拓使管理中ノ設立ニ係ル著名ナル農學校及ヒ近里ニ設置シアル屯田兵等専ラ公衆ノ訓戒ニ依リテ繁榮ヲ來セシモノナリ然レモ此等ノ形狀ハ多ク既往ニ關スル處ニシテ現時ノ状態ニ依ルモノニ非ス何トナレハ札幌ハ現今政府ノ扶助ヲ仰カンヨリ地方自ラノ奮發ニ依頼セサルヘカラサルカ爲メナリ本廳ハ壯大ナル歐羅巴風ノ赤色煉化石造ニシテ東京ニ在ル同種ノ建造物ニ均シキモノナリ此地ニ絹、大麻、亞麻、砂糖等ノ製造所及ヒ鋸挽機械、麥粉製造所、麥酒釀造所、葡萄酒、ブランデー製造所等アリテ悉ク私立會社ニ屬スルモノナリ學校、博物館及ヒ遊園等ハ巡視スル充分ノ價值アリ鮭、鱒、釣漁ハ札幌中央ヲ流ル、豊平川及ヒ札幌ヲ距ル五

里ニシテ對雁川<sup>ツインガ</sup>又ハ千歳ニ向テ大約七里ヲ距ルヲサトナイト稱スル川ニ於テ試ムルヲ得ヘシ

札幌近傍ニ於テ最モ爽快ナル遊歩場ハ學校付屬農園及ヒ公園植物園竝ニ「マコマナイ」ニ在ル牧場竝ニ圓山等ナリ而シテ圓山ノ頂上ニ登レハ札幌市街竝ニ近傍平原ヲ見渡シ其景色最モ美ナリ然レモ又稍遠ク漫遊ヲ望ムモノハ札幌ヨリ大約一里ヲ距ル「カリキ」ニ到リ「アイヌ」人ノ獨木舟ニ乘シ對雁川ヲ下リ而シテ石狩川ヲ登ル一里半ニシテ「イベツ」ニ達シ夫ヨリ列車ニ乘シテ札幌ニ到ルヘシ又幌内ノ石炭山ニハ有志ノモノハ巡視スヘキ處ニシテ午前七時札幌發ノ列車ニテ上程スルハ該山ヲ視察シテ同日歸札スルニ充分ノ時間アルヘシ尙ホ餘暇アルモノハ乘馬或ハ人力車ヲ備フテ札幌ヨリ七里ヲ距ル定山溪<sup>シヨウサンケイ</sup>ニ到ルヘシ此處ニ温泉アリ又六七兩月ニ於テハ鱒釣ヲ爲スヲ得ヘシ又或ル旅行者ハ札幌ヨリ七里ヲ距ル千歳湖ニ到テ一日ノ間ヲ費スモノアリ

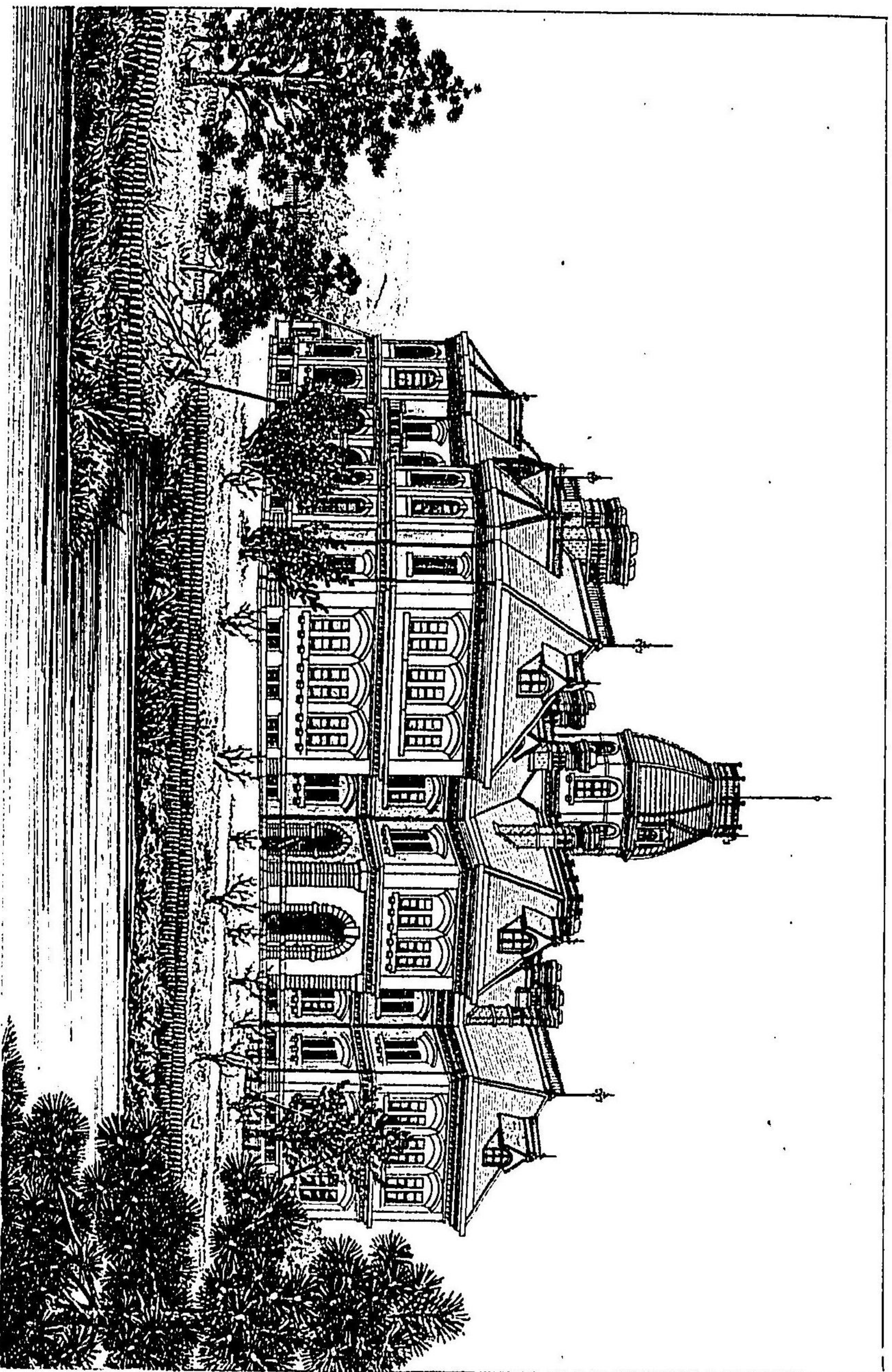
ト雖モ同處ハ蚊及ヒ此夥シク且怖ルヘキ有害蟲ニシテ天然ノ美景ヲ觀望スルノ快樂ヲ妨碍スルハ無論ナルカ故ニ同處ニ遊行スルヲ記者ニ於テハ良心ニ依テ敢テ勸告セサルナリ

札幌及ヒ近傍ニ於テ三日ヲ費シ四日午後札幌ヨリ二十二哩ヲ距ル小樽ニ至ル汽車ニテ發程スルハ翌日正午ニ函館横濱神戸ニ向航スル汽船ニ搭乘スルヲ得ヘシ但シ函館迄ノ航海ハ十八時間ナリ小樽ハ幌内鐵道線ノ終尾ナルヲ以テ繁榮且熱鬧ノ地ナリ此地ノ最良旅店ハ越中屋及ヒ「キトナリ」小樽ノ極端ニ在ル手宮ニ小巖窟アリ其後部ニ當テ奇異ナル文字体ノモノ數個アリテ之ヲ簡單ナル譚話ナルヘシト推量セシモノアリ然レモ眞ニ其記銘ノ何タルヲ知ルモノナクシテ未タ之ヲ解釋スルニ至ラス多分往昔「アイヌ」人ノ細工ニ係ルモノナルヘク後日之ヲ詳知スル時アラン

却說茲ニ至テ前述セシ蝦夷地ニ於テ費スヘキ二週日ノ終リニ達セリ

依テ時日表左ニ記ス

函館滞在	二日
尊菜湖ニ於テ	一日
駒ヶ嶽登山	一日
尊菜湖ヨリ室蘭ニ至ル	一日
室蘭ヨリ猿拂ニ至ル	一日
猿拂ヨリ「ピラトル」往復	一日
猿拂ヨリ苫小牧ニ至ル	一日
苫小牧ヨリ札幌ニ至ル	一日
札幌滞在	三日
小樽滞在	一日
小樽ヨリ函館ニ至ル	一日
合計	十四日



北 函 館 三 之 圖

### 追 録

此小冊子ノ前項ニ於テ簡單ニ記述シタル地方ノ外北海道ニ於テ他ニ  
巡遊スヘキ有益ノ地方ナカルヘシト推測スヘカラス元來此冊子ノ趣  
意タルヤ北海道全般ニ就キ案内記ヲ供センカ爲メニ非スシテ只ニ世  
界中此地方ヲ巡遊セント欲スルモノニ簡單且要用ナル二三ノ豫告ヲ  
與ヘンノミ然レモ又充分ノ餘暇アル者ノ爲メニ巡遊スヘキ有趣的ノ  
地方ナキニ非サルヲ以テ左ニ三ヶ所ヲ記シ以テ參考ニ供ス即チ有珠、  
登別火山及ヒ上川ナリ

#### 有珠

有珠ノ村落ハ室蘭ヲ距ル五里ニシテ火山灣ニ沿ヒ北海道中又愛スヘ  
キ一地方ナリ而シテ此村落ハ大抵「アイヌ」人ニシテ又其港灣ハ小形ナ  
リト雖モ頗ル良港ナリ若シ畫工ニシテ此地方ニ巡遊スルキハ眞ノ快  
樂園タルヲ見ルヘシ又沿岸ニ露出セル岩石及ヒ近傍ノ美景ハ殊ニ快

樂ヲ與フルニ足レリ而シテ充分揮毫ノ勞ヲ取ラサルヲ得サルヘシ有珠ニ到ルニ最モ平易ナル路程ハ室蘭ヨリ小蒸汽船ニ搭シテ紋別ニ達シ阿部農助ト稱スル旅店ニ投宿スヘシ有珠中ニハ此旅店ヲ除キ他ニ吹舉スヘキ旅店ナキカ故ニ此處ヲ本寓ト爲スヘシ紋別ニ於テ乘馬ヲ備ヒ有珠ニ到着ノ上ハアイヌ人ノ酋長キコトツクナルモノニ就キ假寓ト爲スヘキ屋舎ヲ穿鑿シ乘馬ハ從行者ニ托シ而シテ村落及ヒ港灣巡視ノ爲メ案内者トシテ「キコトツク」ニ依頼スヘシ此村落ニ「アイヌ」人ノ戸數百二十三戸人口四百七十人アリ

此村落ヲ距ル大約四哩内部ニ方テ熄火山タル曰ケ嶽アリ其噴火口近傍ニ於テ四方ヲ眺望スルキハ種々ノ美景アリ夫ヨリ北方ニ向テ噴火口ニ沿ヒ進行スルキハ美麗ナル湖水ニ到ルヘシ此湖中ニハ常ニ鯨魚群集シ居ルナリ依テ該村落及ヒ有珠火山ヲ巡視スル價值アルヲ吹舉スルナリ山頂ニ到ルニ通路アリテ湖水近傍マテ乘馬ニテ進行スル

ヲ得ヘシ此ノ短旅行ヲ爲スニ急行ヲ以テ二日間ニ果シ得ルハ容易ナルヘシト雖モ少クモ三日間ヲ費スルハ最モ愉快ナル旅行ナルヘシ

#### 登別火山

登別ノ小村落ハ室蘭岩見澤鐵道線路ニ沿フテ室蘭ヲ距ル十二哩ニ在リ該村ノ名稱ハ登別川ノ右側ニアルヲ以テ其名ヲ付シタルモノナリ「アイヌ」人ハ之ヲ「ヌブルベト」ト稱ス即チ泥濁川ノ義ナリ該川ハ二三里内部ニアル火山ノ噴火口近傍ノ水源ヨリ湧出スル河流ナリ而シテ其支川ヨリ流出スル水色ハ甚シク黄色ナルカ爲メ其名稱ヲ付セリト云フ登別火山ニ上下二ヶ所ノ噴火口アリ其兩口ヨリ多分ノ硫黃質ヲ含有スル熱湯急流シ頗ル稀有ナル有趣的ノ火山ナリ從前ハ上部ノ噴火口近傍ニ方六十嗎ノ温水湖アリ又其後部ニ温噴水アリテ毎五秒時間ニ大約三丈餘ノ水圓柱ヲ噴出セシト云フ然レモ現今ハ温水湖及ヒ温噴水共ニ其影跡絶沒セリ下部ノ噴火口近傍ニハ于今數多ノ温噴水ノ



如キモノアリト雖モ時々發歇セサルモノニシテ間斷ナク射出スルモノナリ又噴火口近傍ニハ數多ノ裂痕ヨリ蒸氣ヲ發出シ其響ハ大ニ不快ノ感覺ヲ起スアアルヘシト雖モ此火山ヲ巡視スルハ全ク價値ナキニ非サルナリ噴火口ヨリ大約二百嗎下部ニ温泉浴場アリ日本人及ヒ「アイヌ」人ニ於テ其藥功著シキヲ稱贊スルナリ該火山ハ鐵道停車場ヨリ五哩アリ故ニ一日間ニシテ旅行スルハ容易ナルヘシ然レモ火山ニ到ル途中徒涉スヘキ河流アルカ故ニ此旅行ヲ企望スル者ハ登別村ニ於テ乘馬ヲ備フヘシ但シ夜間ハ山中ニ滯留セスシテ登別村ニ歸宿スルヲ便ナリトス

## 上川

上川ハ札幌ヲ距ル九十一英哩ニ在ル廣大且豐饒ナル原野ニシテ蝦夷地ノ中央ニ位スル地方ナリ一千八百九十年中有司等謀リテ此處ニ皇帝陛下ノ爲メニ北京宮殿建設地ト定メタリ爾來該地方ハ漸次改良進

歩シ未タ宮殿ノ建設ニ着手セスト雖モ既ニ數多ノ民家ハ勿論諸官衙ノ建設アリ而シテ上川ハ他日新首府ノ名稱ト爲スヘキモノニシテ現今北海道ノ首府タル札幌ニ換ヘキ地方ナリ又本道ノ鐵道中央ト成ルヘシ現今ノ鐵道ハ札幌ヲ距ル五十一哩ニ在ル空知太ニ達スルノミニシテ未タ上川ニ到ルニ尙ホ普通ノ道路四十哩間旅行セサルヘカラスト雖モ該地方ハ既ニ商業等大ニ發達スルノ形勢ナリ此新首府ニ達スル鐵道開通スルニ到ラハ巡覽スルニ充分價値アル地方ナルヘシ蓋シ石狩川沿岸ノ景色及ヒ近傍諸山ノ眺望ハ特ニ美麗ト云フヘキナリ

## 函館港

余終ニ筆ヲ擱カントスルニ際シ尙ホ函館港ニ關シ一言ヲ加ヘンヲ請ハレタリ却說札幌ハ現今官設ニ係ル北海道ノ首府ニシテ該地ノ如キハ到底上川ノ爲メニ其位地ヲ讓ラサルヘカラスト雖モ函館ハ帝國内此地方ニ於テ實際天然ノ首府タルヲ看過スヘカラスト而シテ此地方

タル出入交通ノ便易及ヒ地形上ノ位置トシテ然ラサルハナシ歴史上ニ於テモ函館ノ繁榮ニシテ且緊要ノ地位ニ成立セルハ地勢ノ由テ促迫セシヲ證スルモノニシテ決シテ舶來ノ草木ヲ培養スル如ク強テ成長ヲ促セシモノニアラサルナリ往時松前ノ繁盛ト雖モ函館ニ賴ラサレハ成立セサリシナラン而シテ函館近傍ノ土地ハ蝦夷地中曾テ日本人ニ於テ第一着ニ開墾シタル地方ナルヘシ

函館市街ハ北海道最南端ニ在テ日本大州ニ接近シ人口六万アリ又廣大ナル米産及ヒ養蠶地タル仙臺其他近傍ノ地方ニ往復スルハ容易ナリ函館港ハ日本帝國內最良港ノ一ニシテ就中北海道ニ於テハ第一ノ良港ナリ港内ハ海底深クシテ碇泊場ハ悉ク便利ナリ夏季中不列顛國其他各國ノ艦隊ハ香港、上海、長崎、神戸、橫濱ノ酷暑ヲ避ケンカ爲メ本港ニ輻輳スルナリ實ニ斯ノ如ク函館港ノ緊要ナルヲ以テ本港ノ商人等ニ於テハ船舶ノ便利ノ爲メニ埠頭ノ建築及ヒ汽船ノ爲メニ幌内、空知

及ヒ夕張炭坑ヨリ石炭其他各地ノ物産ヲ運搬スル見込ヲ以テ森村ヲ經室蘭ニ達スル鐵道布設ノ計畫ヲ爲シ居ルナリ但シ石炭ノ價ハ日本貨幣ニテ平均一噸ニ付四圓五十錢ナリ而シテ又函館港ハ日本海ト大平洋トヲ接續スル津輕海峡ニ位スルヲ必ス記憶スヘシ且常ニ充分ノ石炭供給ヲ得ラル、ナラン因テ香港トワシコウワ間ニ航通スル船ハ本港ニ於テ石炭ヲ積載スルノ便利アルヘシ實ニ函館港ハ商業上ニ於テ北海道中樞要ノ地ト言ハサルヲ得サルナリ因ニ記ス一千八百九十一年ニ於テ本港ノ輸出入ノ高ハ殆ント二千万圓ノ價額ニ達セシナリ

函館港概表

五十四

東經	一四〇四四 <sup>度</sup> 二四 <sup>分</sup>	北緯	四一四六 <sup>度</sup> 三〇 <sup>分</sup>
空氣溫度(三ヶ年平均)	華氏 八二 <sup>度</sup> 五 <sup>分</sup>		
戶數	一二七三四 <sup>戶</sup>	人口	五七九四三 <sup>人</sup>
碇泊場(港内)	二二二六〇〇 <sup>坪</sup>		
函館區役所	元町	警察署	富岡町
控訴院	汐見町	地方裁判所	汐見町
區裁判所	汐見町	登記所	汐見町
稅關	仲濱町	郵便電信局	末廣町
司檢所	鍛冶町	測候所	高砂町
英國領事館	會所町	支那領事館	船見町
函館商業學校	元町	商船學校分校	鍛冶町
公立函館病院	天神町	公立豐川病院	豐川町

小學校數	一八	同生徒數	四二六六 <sup>人</sup>
各種學校數	八	同生徒數	六〇〇 <sup>餘</sup>
各國教會所屬學校	四	同生徒數	四〇〇 <sup>餘</sup>
佛法寺院數	一三	新舊基督教會	五
國立銀行本支店	四	商工會社	五
汽船會社本支店	五	新聞紙	三
船舶出入	入 四、五九〇 <sup>隻</sup> 出 四、七七三 <sup>隻</sup>	同噸數入	九四、五六四 <sup>噸</sup>
內國各地へ輸出高	八、〇七六、六五三 <sup>円</sup>	同輸入	九六、三九五 <sup>円</sup>
外國へ輸出高	(同) 六三八、七〇九 <sup>円</sup>	同輸入	一〇、〇三〇、七一八 <sup>円</sup>

函館ヨリ内外各地へ海陸里程

東京マテ	四、五九 <sup>哩</sup>	橫濱マテ	五二九 <sup>哩</sup>
橫濱ヲ經テ神戸マテ	八七六 <sup>哩</sup>	西海廻リ馬關ヲ	八三一 <sup>哩</sup>
		經テ長崎マテ	五十五

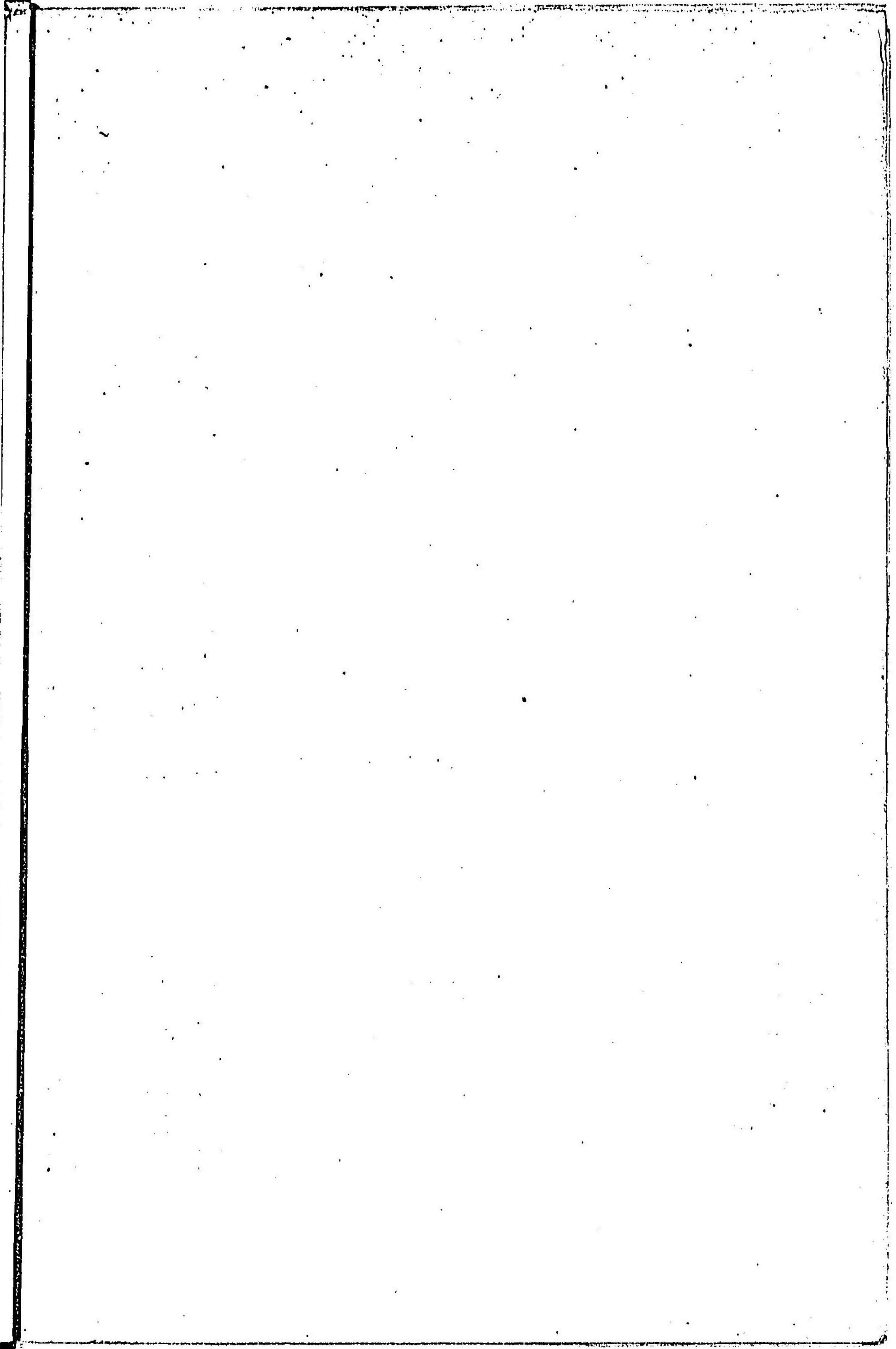
青森マテ	五九	室蘭ヲ經テ札幌マテ	一一一
小樽ヲ經テ札幌マテ	二二一	小樽マテ	二二一
根室マテ	二九五	荻ノ濱マテ	二六六
浦潮斯德マテ	四二四	天津マテ	一五三〇
上海マテ	一、二二〇	芝罘マテ	一、二九〇
香港マテ	一、八二五	「サンフランシスコ」マテ	四、四六九

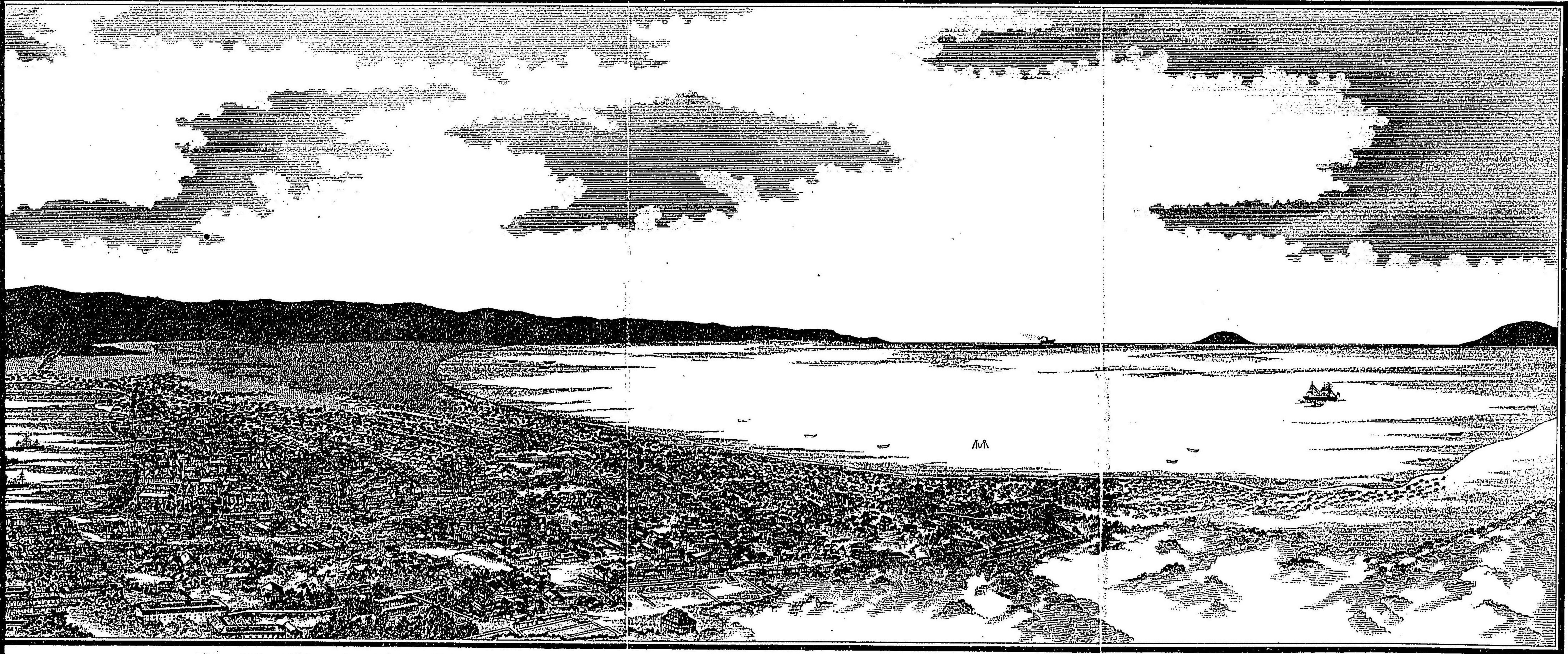
五十六

北海道概表

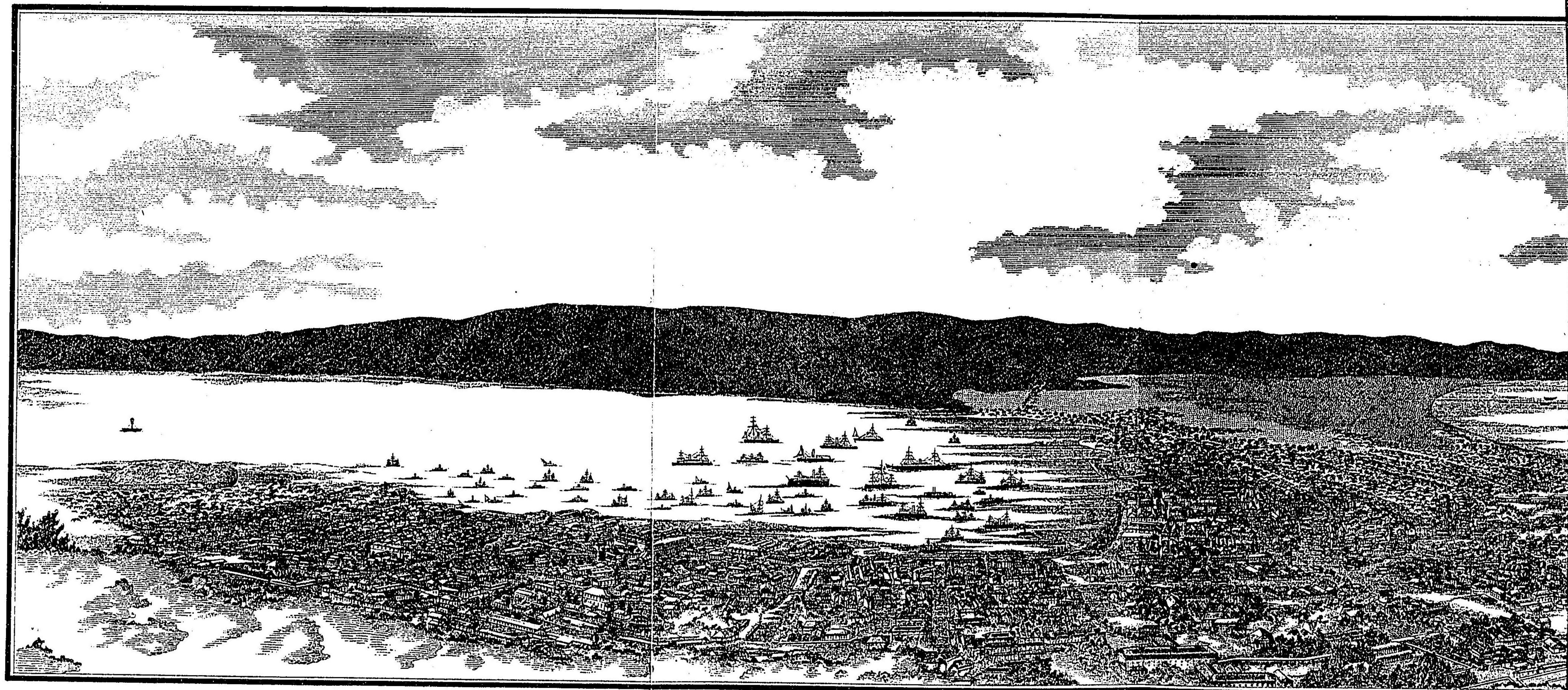
面積	六九、一八	沿岸線	一、二四二
戸數	八七、三四六	人口	四二九、八三七
既測農牧適地			二、九一〇、九〇六、〇〇〇
水産物收穫高			七、九六四、六六九
農産物收穫高			一、二三九、二九二

礦物類產出高		一二、九六、五九八	
内國へ輸出高	八、〇八四、四八七	同輸入高	八、五一七、二三四
外國へ輸出高	六、三八七、〇九	同輸入高	二、一七四、八一





圖之街市館函



圖之街市館函

明治廿六年五月十六日印刷  
明治廿六年六月廿四日發行

(非賣品)

譯者

北海道廳士族

長岡照止

北海道渡島國函館區  
元町五番地

發行者

北海道廳平民

平田文右衛門

北海道渡島國函館區  
末廣町拾番地

印刷者

東京築地活版製造所

曲田成

東京京橋區築地  
二丁目十七番地

印刷所

東京築地活版製造所

東京京橋區築地  
二丁目十七番地



19
414

